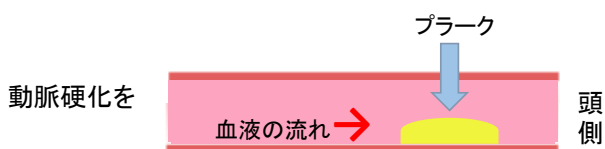
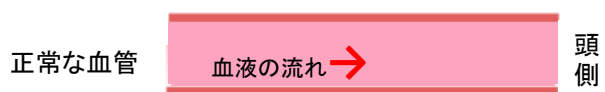
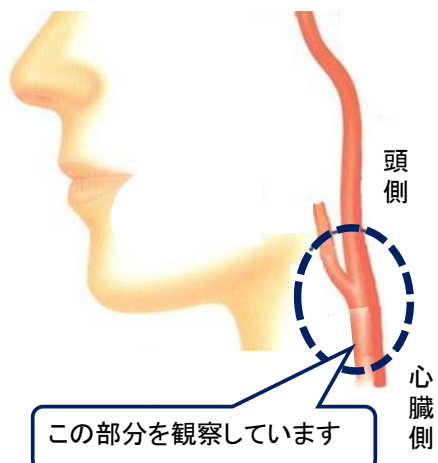


頸動脈超音波検診結果の見方

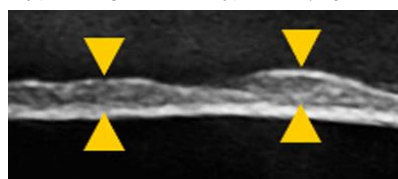
頸動脈は、脳へと続く重要な血管で動脈硬化が起こりやすい部位とされています。

頸動脈に動脈硬化がみられると、他の部位の動脈硬化も進んでいるものと考えられます。

頸動脈超音波検診は、動脈硬化の指標である頸動脈の壁や、限局性のふくらみ(プラーク)の厚みと状態を観察します。



動脈硬化性の変化(プラーク)が見られる超音波画像
血管壁が厚く不整な様子が観察できます



▲は血管壁を示します

頸動脈超音波検査の所見

動脈壁肥厚	動脈硬化により頸動脈の血管の内壁が厚くなることです。 肥厚が進むと血液の通り道が細くなるので流れが悪くなります。
限局性動脈壁肥厚	頸動脈の血管内壁にみられる1.1mm以上の限局したふくらみ(隆起)です。 プラークとも言われます。 肥厚が進むと血液の通り道が細くなるので流れが悪くなります。

頸部(頸動脈以外)の所見について

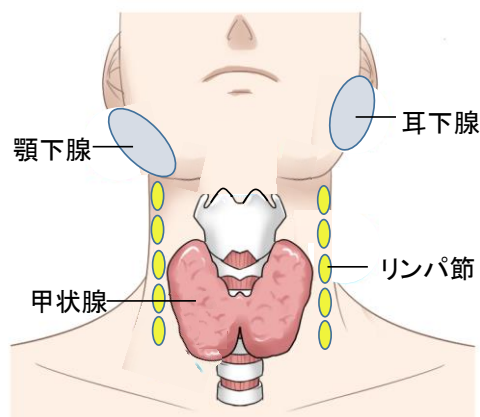
頸部に生じるしこり(腫瘤)には、様々な原因があります。

頸部に生じるしこり(腫瘤)は多くの場合はのどや歯の炎症による

リンパ節の腫れですが、がんなど頸部のリンパ節に転移をきたす

こともあります。また耳下腺、甲状腺などの頸部の臓器に良性・悪性(

腫瘍が生じることもあります。



*頸動脈超音波検診では、頸動脈以外(頸部、甲状腺など)の病気が発見される場合があります。
当協会での頸動脈超音波検診は、原則、頸動脈以外は検査対象ではありませんが、観察された範囲内で精密検査を必要とする所見についてはお知らせし、診療情報提供書を発行しますので、専門医療機関の受診をお勧めします。